



# 対がん協会報

1部77円(税込み)

第700号

2021年(令和3年)  
4月1日(毎月1日発行)

公益財団法人 日本対がん協会 「日本対がん協会」と「対がん協会」は登録商標です

〒104-0061 東京都中央区銀座7-16-12 G-7ビルディング9階

☎ 03-3541-4771 FAX 03-3541-4783 <https://www.jcancer.jp/>

主な  
内容

- 2面 2021年度がん征圧スローガン 決まる
- 3面 朝日がん大賞の大橋靖雄氏逝去
- 4～5面 RFLJが新指針「3つのC」

## 2020年の受診者30.5%減

### コロナ禍 支部対象3次調査 未発見がん約2100の可能性

新型コロナウイルス感染症の流行でがん検診の受診者が減少している実態を把握するため、日本対がん協会は各支部の協力を得て2020年(1月～12月)の住民検診の受診者数を調査した。回答があった32支部が2020年に実施した5つのがん検診(胃、肺、大腸、乳、子宮頸)の受診者は延べ394万1491人で、2019年の567万796人から172万9305人減少、対前年比30.5%の大幅減だったことが明らかとなった。

受診者数の減少分に、厚生労働省の「地域保健・健康増進事業報告」(2018年度)による全国の住民検診での各がん発見率を掛けて推計すると、最大で計約2100のがんが未発見となっている可能性がある。

ただ、新型コロナ感染拡大に伴って住民検診の実施形態を集団検診から医療機関などでの個別検診(健診)に変更した自治体もある。減少分のおよ半数が個別検診に移行して受診したとすれば未発見がんは約1000にとどまるが、集団検診の減少分すべてを個別検診でカバーすることは困難とみられ、一定数の未発見がんが生じていることは避けられない。日本対がん協会グループ支部以外のがん検診や人間ドックなどでの発見、別の疾患の治療中に偶然発見されるがんなども同様に「受診控え」で減少しているとする、2020年の日本では少なく見積もっても1万以上のがんが未発見となっていることが懸念される。

新型コロナの感染拡大ががん検診に及ぼす影響の調査は昨年6月と8月に続き3回目。今回は今年2月から3月にかけて、がん検診にかかわる42支部に2020年の月別受診者数と発見がん数などを尋ねる調査表を送り、32支部から回答を得た。

月別推移をみると、受診者数の減少は3月の前年同月比49%減から顕著になった。全国に緊急事態宣言が発出されて各地で検診の中止・休止が相次

いだ4月は同85%減、5月は同93%減とかつてない減少幅となった。

緊急事態宣言がすべて解除され、厚生労働省が5月26日付で各種検診について「制度趣旨にのっとった適切な実施」を求める通知を自治体に出して以降は回復に転じた。6月は検診車や医師・スタッフの手配がすぐにはできないため前年同月比68%減となお低調だったが、7月は前年の6割程度まで戻した。

秋の検診シーズンは各支部が集中的に日程を組み、過度な受診控えの弊害が報道されるようになったこともあってか、10月には対前年比102%を達成。例年は閑散期となる12月も前年を約7万人上回り、12月としては異例の対前年比123%を記録したが、これらの努力をもってしても春から初夏の極端な減少を取り戻すことはできなかった。2020年度(2020年4月～2021

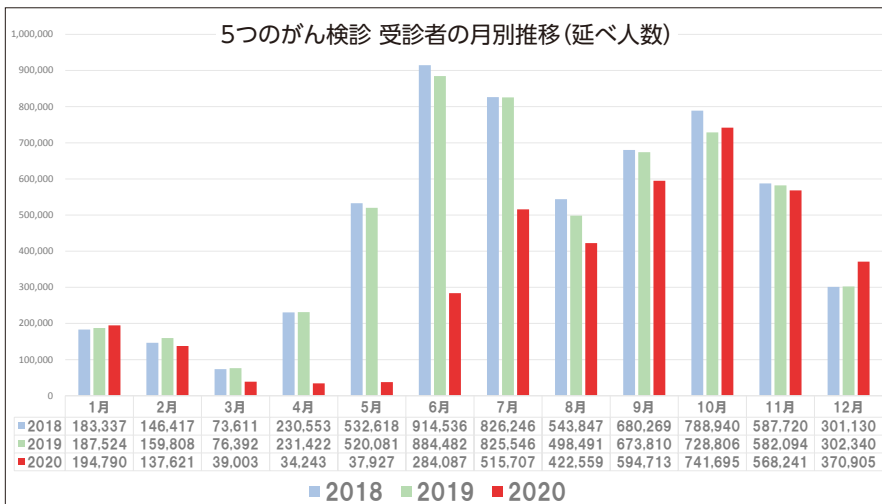
年3月)の受診者数は未調査だが、年明けに一時最大で11都府県に発出された2度目の緊急事態宣言が受診者数回復にブレーキをかけた恐れがある。

ワクチン接種が始まって感染拡大の収束はまだ見通せず、第4波の到来も懸念されている。日本対がん協会は引き続き各支部・関係機関と協力して「3密」を避ける予約システムの普及、効果的な受診勧奨(がん検診アクセシビリティ向上)の研究を進める。

◇ ◇

未発見がんが近い将来、進行がんとなって発見される事態を食い止めるため、今後も様々なアプローチで強力な受診勧奨が必要です。今回の調査結果は説得力のあるデータとしてメディアでも多数報じられています。ご多忙を極める中、調査にご協力いただいた各支部に厚く御礼申し上げます。(日本対がん協会がん検診研究グループ)

5つのがん検診 受診者の月別推移(延べ人数)



## 2021年度がん征圧スローガン決定

35支部から166作品の応募

## 「コロナでも 変わらぬ習慣 がん検診」

日本対がん協会は、2021年度のがん征圧スローガンを「コロナでも 変わらぬ習慣 がん検診」(岩手県支部・及川慶亮さん作)に決めた。スローガンは毎年、グループ支部職員から公募して選定しており、今年は35支部から寄せられた166作品の中から最優秀賞1作品、優秀賞3作品を選んだ。9

月8日に宮崎市で開催される「がん征圧大会」で表彰を予定している。

及川さんの作品は、新型コロナウイルス流行でがん検診受診者が大きく減っている状況下、がん征圧のカギとなる定期的な受診の習慣を途切れさせないで欲しいという強いメッセージがよく伝わることから最優秀賞に決まった。

がん征圧スローガンはポスターやリーフレットなどに刷り込んで受診勧奨に活用するほか、自治体や企業などの啓発資材にも使われる。スローガン使用についての問い合わせは日本対がん協会広報(電話03・3541・4771)へ。(日本対がん協会広報グループ・渡辺奈保子)

## 受賞者の声

## 最優秀賞

「コロナでも  
変わらぬ習慣  
がん検診」

岩手県  
対がん協会  
総務課

及川 慶亮さん

医療機関への過度な受診控えが問題視されていますが、がん検診も同じ状況にあります。検診機関では消毒やソーシャルディスタンスなど、十分なコロナ対策をとっています。検診会場には安心して足を運んでいただき、がん検診を「変わらぬ習慣」として続けて欲しいと思います。

## 優秀賞

「受けない理由 コロナ  
にしないで がん検診」

栃木県保健衛生事業団  
集団健診部健診推進課 高橋 英和さん

スローガンはこの10年間、毎年10作品を作って応募しています。今回やっと念願の県大会(支部選考)を勝ち抜き、全国で優秀賞をいただけて本当にうれしいです。コロナが不安な気持ちではありますが、ぜひがん検診を受けていただきたい。これからも受診勧奨のためのスローガンを作ります。

## 優秀賞

「がん検診 受けて笑  
顔の 二重丸」

愛媛県総合保健協会  
南予支所 宮本 修治さん

適切な間隔でがん検診を受けることで、がんでないことがわかったり、早

## 優秀賞

「密を避け マスク  
手洗い さあ検診」

群馬県健康づくり財団  
総務部企画広報課 山口 泰子さん

密を避ける、マスクをする、手洗いをすると行った行動は、検診での安全を保つ基本です。検診機関はそうした対策をしっかりと行っています。どうか受診控えをせず、しっかりマスクと手洗いをし、安心して検診会場に足を運んでいただきたいと思います。

期発見で治療に伴う様々な負担を抑えられたりもできます。検診を受けることは、受けた本人も家族も、みんなを笑顔にするといい、「笑顔の二重丸」が頭に浮かびました。ぜひ安心して受診し、笑顔になって欲しいと思います。

緊急事態  
宣言すべて  
解除

## がん相談ホットラインの毎日実施を再開

社労士電話相談はネット予約に変更 専門医相談は休止

新型コロナウイルス感染症の流行第3波により一時最大で11都府県に再発出された緊急事態宣言は、首都圏1都3県が3月21日をもって解除され、すべて解除となった。これを受け、日本対がん協会の無料電話相談「がん相

談ホットライン」は同22日から基本の相談実施体制である毎日受付(祝日・年末年始を除く)を再開した。受付時間はコロナ禍に伴う臨時態勢である1日6時間(午前10時～午後1時、午後3時～6時)を維持する。

このほか、2021年度からは社会保険労務士による「がんと就労」電話相談の予約をインターネット上の専用フォームからの申し込みに変更し、電話予約は取りやめる。また、がん専門医による相談(電話、面接)は休止する。

## がん相談ホットライン 03-3541-7830

緊急事態宣言の解除に伴い、毎日受け付け(祝日除く)を再開しました  
時間は当分の間、10:00～13:00 15:00～18:00  
社会保険労務士による「がんと就労」電話相談の予約はインターネットの  
専用フォームで受け付けています



社労士による電話相談

態勢縮小のため  
電話がつながりにくい  
ことがあります。  
何卒ご了承ください



## 大橋靖雄氏が逝去

生物統計学 朝日がん大賞

生物統計学の第一人者としてがん治療の臨床試験やがん検診研究の統計・データ管理を指導してきた中央大理工学部教授・東京大名誉教授の大橋靖雄氏が3月11日、逝去されました。67歳。葬儀は同15日、東京都内で近親者のみで執り行われました。

科学的に計画された臨床試験の重要性を早くから訴え、試験の質を支える独立した統計センターの設置とデータマネジメントを実践。術後補助化学療法に関する一連のNSAS研究や胃がんのACT-GCなどの臨床試験を統計専門家として指導したほか、がん検診に関する我が国初の大規模無作為化比較試験となったJ-STARTなどにも関わり、2014年の朝日がん大賞に選ばれ

ました。

受賞を記念して2014年9月、日本対がん協会全国支部長会議で講演した際は、各支部が実施するがん検診のデータが果たす役割について「子宮頸がんワクチンがどのくらい子宮頸がんを減らすのか。対がん協会の追跡データがあれば数年先には評価できるはずで、こういう研究は対がん協会しかできない」などと期待を語っていました。その期待が実現し、昨年11月、協会の検診データからCIN3以上の高度病変に対するHPVワクチンの有効性を示す研究結果が発表されて間もなくの訃報となりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。



## 都立2高校の がん教育授業に協力

緊急事態宣言下、「非対面」の形式

日本対がん協会は3月18、19日の両日、東京都立千歳丘高校(世田谷区)と同立川高校定時制(立川市)で行われたがん教育授業に協力し、がんサバイバー・クラブ担当の2職員を講師として派遣した。

千歳丘高校では3月18日、2年生を対象にした授業を大塚彩実職員＝写真上＝が担当。家族に支えられながら乳がん治療に取り組んだ経験を語った後、「がんは誰にでもなりうる病気。周りの人から『がんになった』と告白されたときは『がんになったのはあなたのせいではないよ』と寄り添ってあげてください」と呼びかけた。



立川高校定時制では翌19日、事前収録した濱島明美職員＝写真下＝の授業を1～3年生約150人が視聴した。乳がんが再発し、働きながら抗がん剤治療に取り組んでいる濱島職員は事前に寄せられた「勇気づけられる言葉は？」の質問に「『がんばれ！』と言われると『これ以上何をがんばれというのか』と思う人もいる。『よくがんばっているね』とねぎらわれると、うれしいと思う」と答えていた。



両校とも東京都内に2度目の緊急事態宣言が出されている中での授業。どちらも当初計画した講堂などでの集合形式は見送り、千歳丘高は別室から生徒がいる各教室へのリアルタイム配信、立川高定時制は事前に収録したビデオを放映する「非対面」での授業となった。目の前にいない生徒たちに語りかけるため、両講師とも話すスピードやタイミングに普段以上に気を遣いながら授業を進めた。2021年度もこうした形式の依頼が主となる可能性がある、これに対応する講師スキルを高めていく必要を感じさせる授業協力となった。振り返りを行い、より質の高い授業をめざしていく。

## GSCオンラインおはなし会 『もしバナ』で新たな気づき

日本対がん協会のがんサバイバー・クラブ(GSC)は3月17日、毎月1回のオンラインおはなし会として「もしバナゲームをしよう」を開いた。誰にもいつか訪れる最期の時に備えた「もしものための話し合い」は、「縁起でもない」「まだそのような話をする時期ではない」といった理由で避けてしまいがちといわれる。そうした話題を身近な人と語り合うきっかけになるカードゲーム「もしバナゲーム」のマイスターとして活動している看護師の中村恵さんと河相ありみさんを講師に迎え、約90分のワークショップを体験した。

コロナ禍で生活や行動が制限され、ACP(アドバンス・ケア・プランニング＝将来の変化に備え、患者が主体となり、家族や支援者、医療ケアチームが繰り返し話し合い、これからどう過ごしていきたいかの意思決定を支援する一連のプロセス)の機会が以前に比べて少なくなっている。今回のワークショップは「人生の最終段階＝死」を考えるとというよりも、その前段階として、がんをはじめ様々な病気を抱えている人もそうでない人も、自分の大切にし



ている価値観に気づいてもらうことを主な目的とした。

当日は全国から29人がリモート参加。がんサバイバー、家族、医療・福祉の関係者、がん患者支援に関わる人たちなど多彩な顔触れがそろった。

参加者からは「まだ遠い先の話で、きょうは外野といった気持ちで参加したが、ワークを進めるうち、いつどこで命の危機が来るかわからない現代なのに、家族と『もしもの時の話し合い』ができていないことに気づいた」といった感想が多数寄せられた。

現在がん治療中という参加者は「再発治療の先にあることを知りたいと思っても、なかなかそのきっかけがない。自分がどうありたいのか、再確認することができた」と語った。

また、「心を揺さぶられる感覚だった。このゲームを使って自分自身や身近な人と話せるようになりたい」という声もあった。(日本対がん協会がんサバイバー・クラブ担当・上嶋瀬麻有)

オンライン上で行われた「もしバナゲーム」

リレーフォーライフジャパン

## RFLJ 20年度サミット&amp;21年度キックオフミーティング

新指針・ガイドライン 「3つのC」発表

## 「コロナだからできること」めざす

がん患者支援のチャリティーイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン」(RFLJ)の関係者が一堂に会する2020年度サミットと2021年度キックオフミーティングが2月27日、リモートで開催された。新型コロナウイルス感染防止のため、全国各地の実行委員会とナショナルスポンサーの代表ら合わせて約90人がZoom上で集い、その模様はYouTubeでも同時配信された。

午前中は20年度を振り返るサミットが開かれた。がんで亡くなった人をしてので全員で黙とうした後、垣添忠生会長が東京都中央区の日本対がん協会オフィスから開会のあいさつ。石田一郎常務理事は協会の最近の主な活動を紹介した。

続いてRFLチームより、20年度は初開催の東美濃と鳥取を含む計52地区でオンライン形式も含めてリレー活動が行われたことが報告された。年間の寄付見込みは4207万円(対前年比36%減)で、そのおよそ半分の2188万円はがん相談事業に充当される。新型コロナウイルスの感染拡大と寄付金減少のため、海外奨学医派遣事業と新しい治療法や新薬の開発などの研究に助成する「プロジェクト未来」の募集は見



Zoom上で一堂に会したRFLJ関係者

送られたことも報告された。

20年度に新たに始まった4つのオンライン活動=下表=の実績も紹介された。④の「RFLセルフウォークリレー」には全国から2006人が参加して目標の3億歩を達成。2165万円の寄付を集めた。

ナショナルスポンサー15社の紹介では武田薬品工業の吹田博史さんから代表のメッセージをいただいた。とまこまい(北海道)、さいたま(埼玉県)、御茶ノ水(東京都)、岐阜(岐阜県)、大阪あさひ(大阪府)の各実行委員会は2020年の活動動画を紹介し、参加者

が熱心にメモをとる姿がZoomの画面上で見られた。



日本対がん協会からの放映風景

その後は参加者らが7班に分かれ、「これからのRFLJのカタチ」をテーマにしたグループワークを展開。コロナ禍における各地の苦闘を振り返りながら、経験や事例を共有し合った。「今年はリレーを復活させたい」という想いは参加者みな同じ。デジタルツールの有効的な活用方法について多くの関心が寄せられたようだ。連絡先を交換する姿もあり、グループワークを通じて得た生きた情報を各実行委員会に持ち帰った。

## 夜通しイベントは「推奨」に変更

午後のキックオフミーティングでは岡本宏之事務局長兼RFL統括マネジャーが21年度に向けた指針・ガイドラインを「3つのC」=右面上表=として話した。コロナ禍を受け、夜通しイベ

## 2020年度、新たに始めたオンライン活動

## ① 「One team One heart」

7実行委員会が取り組んだクラウドファンディングなどのオンライン募金

## ② 「One hope night~同じ空の下で~」

リレーイベントの創始者、ゴルディ・クラット医師の命日にルミナリエにキャンドルの灯をともし、同じ時を共有し、ZoomとFacebookでライブ配信

## ③ 「RFLグッズを身に着けて応援しよう」

RFLオリジナルグッズのチャリティー販売

## ④ 「RFLセルフウォークリレー」

10月24日から1か月実施。スマホアプリを持つ個人が、好きな場所、好きな時間に、3密を避けて参加できる新しい形のRFLを試みた



ントを「行う」としていた従来の規定を「推奨する」に改めたのが大きな変更点となる。

続いて2021年度に新たに活動を開始する地区の紹介があり、佐世保(長崎県)の吉村市代さん、ところざわ(埼玉県)の松島一浩さんの2人の実行委員長がその意気込みを語った。

20年度に新たに発足した「RFLアドバイザーボード」と「グローバル・ヒ

ーローズ・ホープ(GHOH)ジャパンの会」も紹介された。GHOH会のリーダー堀均さんからは「RFLのスポークマンとなり、日本対がん協会やアメリカ対がん協会のリレー活動に積極的に参加していく」旨の決意表明とヒーローズ・ホープの歴代受賞者に向けた協力の呼びかけがあった。最後に日本対がん協会がんサバイバー・クラブの横山

光恒マネージャーから事業紹介があり、後藤尚雄理事長のあいさつで全日程を終えた。

参加者からは「コロナ禍におけるRFLの運営を学ぶよい機会になった」といった感想が多くあった。サミットとキックオフを通じ「コロナだからできない

## 2021年度活動方針「3つのC」

### ①Challenge

新たなリレー、セルフウォークリレーを全国へ拡大

### ②Change

夜通しイベントを「行う」としていた従来の規定を「推奨する」に変更

### ③Communication

さらなるコミュニケーション。SNSやHPによる情報発信と共有を強化し、ファン、スポンサーづくりを行う

を、コロナだからこそできることに変えていく」という、ある参加者の言葉が特に印象的だった。RFLの次のステージが楽しみだ。  
(日本対がん協会事務局長兼RFL統括マネージャー・岡本宏之)



5 実行委員会が2020年の活動を動画で紹介

## 「まんが みんなのがん読本」をWeb公開 乳がんサバイバーの漫画家・夢野かつきさんが描く

がんのことを子どもたちにもっと知ってもらうため、日本対がん協会は3月26日、「まんが みんなのがん読本」をホームページ上で公開した。2人の子供が医師と対話しながら、がんの知識を一つずつ学んでいくというストーリーで、漫画を描いたのは乳がんサバイバーの夢野かつきさん。夢野さんは「お父さんやお母さんにも、がんの

ことをもっと知ってもらえたら、うれしいです」と話している。

協会はこれまで、文部科学省選定の動画アニメ教材「よくわかる！がんの授業」など、子ども向けの教材を制作してきた。がん教育が教育指導要領に盛り込まれ、2021年度から全国の中学校で全面实施、高校でも2022年度から年次進行で導入されるほか、小学校でもがん教育が重視されるようになっていくことから、協会は改めて子ども向けの読み物を作成した。

「まんが みんなのがん読本」はモノクロ・一部カラー、25ページ。垣添忠生会長が監修し、小学校高学年以上を対象年齢としている。生涯で2人に1人ががんになり、年間死亡者の3割近くががんで亡くなっている現状に触れた後、がんの原因とがんの種類を説明。さらに禁煙

国が勧める5つのがん検診、命と健康の大切さなどを解説している。とこところにクイズを織り込むなど、子どもたちが読みやすいように工夫した。

漫画を描いた夢野さんは2015年に乳がん罹患。その時の体験を「乳癌日記」という漫画にして発表した。今回、協会からの執筆依頼に対して「子どもたちに、がんの正しい知識を伝えることのお手伝いができるなら」と快諾いただいた。夢野さんは「まんが みんなのがん読本」のあとがきで「今は治療して元気になりました。正しい知識を持てば、怖いイメージのあるがんも、怖くなくなります」と書いている。



「まんが みんなのがん読本」は日本対がん協会のホームページから無料でダウンロードできます。この読本は三井住友銀行から2020年度にいただいた寄付金で制作しました。  
(日本対がん協会総括アドバイザー・坂野康郎)

「まんが みんなのがん読本」の一場面



ダウンロードはこちら

## 「休眠預金」活用事業シリーズ④

『企業内ピアサポーター』を  
企業とつくる

～がん経験を職場のポジティブ・エネルギーに～

CSRプロジェクト桜井さん、高橋さん×カルビー武田さん

休眠預金を活用したがん患者支援事業を担う一般社団法人CSR プロジェクト(以下、CSR)は、「企業内がんコミュニティの育成による、がんと治療の両立支援・ダイバーシティの推進」をテーマとした事業に企業と協働して取り組んでいる。今回はCSR代表理事の桜井なおみさん、理事・事務局長の高橋みどりさん、そしてパートナー企業の一つ、カルビーの常務執行役員CHRO(人事最高責任者)人事総務本部長・武田雅子さんにお集まりいただき、「がん患者(当事者)も職場も元気にしたい」という思いを語ってもらった。3氏はいずれも乳がんの経験者で、離職や転職を経験している。司会は日本対がん協会の石田一郎常務理事。

(取材と構成・日本対がん協会 休眠預金活用事業担当)



安心して自分らしく生きる

——CSRさんは今年3月で設立からちょうど10年を迎えます。振り返っていかがですか。また、次の10年をどう考えますか。

## 自立のきっかけを支援

**桜井** 自身の乳がん罹患と治療、そして離職など将来の不安を抱えていた時期、「病を持つ人が自分らしく生きる」をテーマにした東京大学の「医療政策人材養成講座」を受講したのが出発点でした。がんに関心する働く世代のうち、3割の人が働きたいのに辞めていることについて、「これは個人の問題ではなく社会問題で、そこにはいろいろな因子がある」点をがん就労の調査研究で提起しました。当時は省庁再編の時期で、厚生省と労働省の統合はまさに“両立”のテーマそのものということもあって、関心を持って評価を頂きました。

そして両立の取り組みを実際に社会で広げるためCSR(Cancer Survivors Recruiting=がんサバイバーの就労)プロジェクトを設立しました。国はこの間「がん対策基本法」などの法整備を進めましたが、一人ひとりの多様な働き方を支えるためには、多様なキャリアの中で働いてきたサバイバーの力が



桜井なおみさん

必要です。知り合いの企業の方たちにお声がけし、辛い仲間が増えました。

基本的な考え方はあくまで「自立していこう」です。私たちは支援で自立するきっかけを作りたい。企業人はもともと“課題解決が仕事”というDNAを持ち合わせているし、参加企業・参加者の得意分野も異なるので、課題抽出、その課題をめぐる議論、解決へ向けたアイデアがどんどんふくらみます。共感して頂ける企業・仲間が広がるよう活動を続けます。

——NPOが企業と一緒に職場で課題解決するというアプローチは、実効性・継続性の面から選定委員の皆さんも期待しています。続けて武田さんに



お尋ねです。武田さんは企業経営というお立場ですが、本事業に関わることになったきっかけは何ですか。

**武田** 私は30代での乳がん治療で精神的につらい時期があり、その時キャンサーネットジャパンさんの患者おしゃべり会で桜井さんと出会いました。病気をしたことで様々なバックグラウンドや業種の人たちに出会い、話を聞いてもらう機会に恵まれましたが、同席していた若い患者さんたちの悩みには仕事のことが多く、当時から私自身が人事の仕事をしていたこともあり、いつの間にか話を聞く側になっていました。

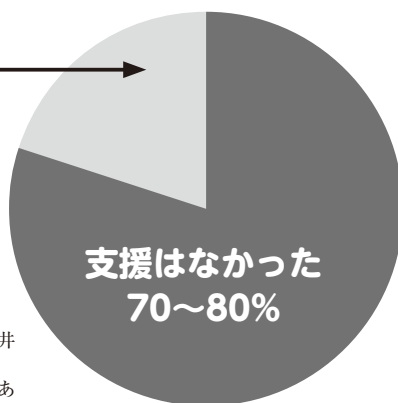
カルビーに転職した時、社員さんへの自己紹介で自分が乳がんであったことも伝えたのですが、その後、“実は私も…”とカミングアウトしてくれる人が現れました。たった一人からの小さなスタートでした。今、社内でがん患者・サバイバーのネットワークを作っていますが、経験者が集まることで職場に核ができて、“何ができるか、何をしようか”という動きが生まれま



## 通院治療中～仕事復帰し現在に至る各段階で 『支援はなかった』と回答した人が多い

### 対応・支援があった

柔軟な勤務時間  
在宅勤務  
制度説明  
就業規則見直し  
上司、人事、産業医との連携  
見舞金など



厚生労働省労災疾病臨床研究事業「治療と職場生活の両立におけるストレスマネジメントに関する研究」(桜井原稿)より抜粋・編集

(注)がんの診断を受けて10年以内のがん治療の経験のある18歳～64歳の男女300人を対象とした調査(2019)より

した。こういった動きの持つ力は、ある意味企業トップの一言以上に強く職場に伝わり、パワーになると考えています。こうした変化を多くの職場に広げたい。

**高橋** 私は以前、外資系企業に勤めていたのですが、がんに罹患したことや治療などで配慮すべき事情はごく自然にオープンに職場で共有されていました。日本企業の場合、がんという病気を理解しないまま無意識に“関われない”と決めつけてしまう傾向があるような気がして、自分に何かできないかと思ったのがCSRに参加するきっかけでした。

### 身近な相談相手を意識的に育成

——事業計画で二つの柱を示されました。一つが職場の身近な相談相手としての「企業内ピアサポーター」の育成と体制整備です。なぜ、この事業コンセプトを発想されたのですか。

**桜井** 厚労省の研究事業の一環で治療と職場生活の実態調査を行いました。“診断から入院、通院治療、職場復帰という各段階で、どのような支援が企業や職場であったか”という設問で、制度面を含めて具体例を聞きました。残念ながら、どの段階においても70～80%のがん患者が「支援がなかった」と回答していたこと＝上左図＝が背景にあります。休眠預金活用事業の公募を知り、3年間というまとまった期間で横展開のための“職場の身近な

相談相手をつくり、つながる“という理想モデルの実例を積み上げたいと考えました。

——職場のネットワーク作りから、さらに「企業内ピアサポーター」という人材育成に踏み込まれています。どのようなモデルづくりに取り組まれますか。休眠預金活用事業はあと2年で終わりますが、人づくりは長期です。同じピアサポートに取り組む方も関心が高いと思います。育成の指標があれば教えてください。

**桜井** 昨年、パートナー企業4社(アフラック生命保険、カルビー、サッポロビール、電通)の合同でピアサポート研修を行いました。各社のがん経験者や支援者を対象に、ピアサポートの実践に必要ながんの基本知識や基本スキルの習得に取り組みしました。コロナ禍でもありオンラインで行いましたが、ロールプレイングも交えながら様々な気づきや意見交換をしました。

その時に使った、「企業内ピアサポーターが身につけたい基本スキル10項目」＝上右表＝があります。特に①～④はいわゆる“壁打ち”の相手(聞き役に徹する立場)になって、悩みを中心は何か、これからどうしたいのか、生活や仕事の優先順位は何かなどを聞いて整理するお手伝いです。全ての項目をまんべんなくというより、まずは相談・傾聴のチェックリストとして活用してもらえればと考えています。がん患者の関心はそれぞれですし、よくよく聞いていくと、がん罹患をきっかけにそれ以前から職場で悩んでいた潜在的な問題があぶり出されることもよくあります。

## 「企業内ピアサポーター」の基本スキル

- ①自己の体験を整理する(自己一致)
- ②インパクトを受けたピアへの傾聴
- ③体験をもって相手を受容する力
- ④患者の希望と現状とのギャップの整理
- ⑤心理的ケアやストレス対処法等の情報提供
- ⑥制度やルールの利用経験、企業文化の理解
- ⑦人事、産業医、医療機関への橋渡し
- ⑧守秘義務を含めた運用ルールの厳守
- ⑨がん治療に関する情報収集能力
- ⑩社内への発信力、シェアリング能力

◇ピアサポートとは◇

同じ課題を抱える者が集まり、それぞれの状況での自分の体験や行動、考えなどを語り合うことにより支え合う活動



武田雅子さん

けにそれ以前から職場で悩んでいた潜在的な問題があぶり出されることもよくあります。

## 「がんと就労」を制するは働き方改革を制する

——なるほど。まず平易な言語化が第一歩ですね。人の話が出たので一つ伺います。国立がん研究センターの「がんと就労白書(2017-2018)」で第1回企業意見交換会の議論が取り上げられました。座長は武田さんが務められましたが、「がんと就労を制することは働き方改革を制することにつながる」と発言されています。なぜでしょうか。

**武田** がん患者の就労は(各人の症状やできることについての)個性が非常に高く、周囲の人間が一人ひとりと向き合う風土が職場にあることが必要です。しかし現実には、“がん”と聞くと周囲は固まったり引いたり、あるいは

は“自分はこうやって正しい対応をしたらいだろう”と当事者不在のまま物事が進んでしまうことがほとんどです。また、同じ種類のがんになった社員でも働き方や考えは人それぞれ。当事者とその都度しっかり向き合うことが大切という考え方も、多様な働き方を考えるマネジメントの基本です。結果それが他の傷病にも応用ができると思うからです。

採用・育成など人に対する長期投資と事業のリターンをセットで考えることは経営そのものです。そういう意味で人事は社内制度の整備といった一義的責務はありますが、もっと経営に関わっていいとも考えています。人生百年時代と言われながら、国内では労働人口の減少が明らかな現在、がん治療と就労のテーマは経営的視点からも重要な課題の一つです。

——武田さんが発起人を務める「がんアライ部」(\*)に多くの賛同企業が「がんアライ宣言」をして様々な活動を発信されています。CSRさんも複数社と連携されていますね。



石田一郎常務理事

**桜井** 企業さんの中には治療と仕事の両立支援を(労働安全衛生のような)義務的なものに見る側面がありますが、一方で“多様性は面白い”、“新しい価値・ビジネスを生むきっかけに”という感覚もあります。「がんアライ部」などでも優れた取り組みを表彰・共有・発信されていますが、そうした企業が是非増えてほしい。少しでも多くの企業に企業内ピアサポーターの育成事業を知って頂き、一緒にロールモデルを作りたいです。大企業が変われば中小・零細も気づきの機会が増え、アクションにつながると思います。

**武田** 「がんアライ部」では企業表彰をおこなっていますが、審査にあたっては1社1社のストーリーをしっかりと読み取り、授賞理由についての審査員間の目線合わせなどにも時間をかけま

\*がんの治療をしながら働きやすい職場や社会を実現するため、勉強会やセミナーなどを通じてがん患者とともに働く人々のリテラシー向上を目指す活動体。現在約40社が参加。

## プロジェクトロゴ「WorkCAN's」に込めた思い

高橋さんに聞く



働く(Work)と、がんと共生することができる(Can)への決意を込めてプロジェクトのロゴを作りました。パートナー企業さんのデザイン協力も頂き、とても気に入っています。

今後、企業内ピアサポーターを育成し、がんに罹患した社員の身近な相談先を確保するとともに、企業内における「がん」への理解促進、就労支援にお

ける医療機関への橋渡し役として、支援体制全体の質の向上を目指します。企業だけでなく社会に広く浸透するようにモデル作りに取り組みます。特に、人材面で困難が



高橋みどりさん

予想される中小・零細企業においては、オンラインでのコミュニティ支援などを展開します。皆様のご参加をお待ちしています。(談)

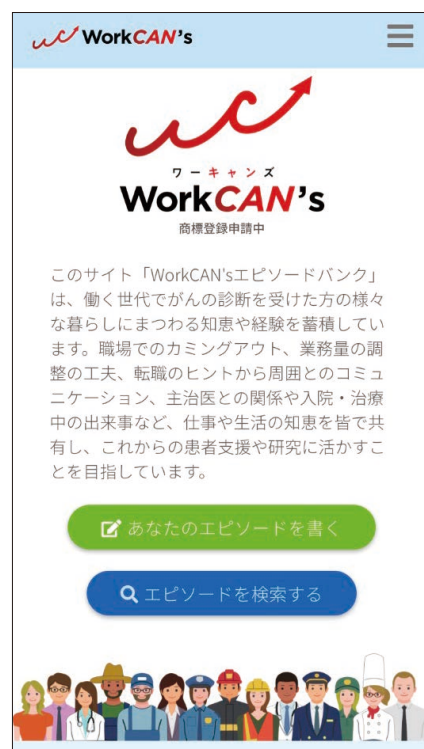
す。何より各社・各参加者が“様々な背景を持つ社員が生き生きと働くために何かヒントを持って帰りたい”、と非常に真剣に、時にガツガツ(笑)して参加される様子はとても印象的です。

**高橋** こうした企業内ピアサポートの事例を生み続けることで大きな波になると思います。SDGsもこの数年で認知度が飛躍的に向上しました。

### 中小・零細企業の がん患者向け 「エピソードバンク」

——事業骨子のもう一つの柱について。絶対数がそもそも少ない中小企業や個人事業主のがん罹患率・経験者を孤立させないための交流サイト「エピソードバンク(がん患者版)」を今年2月に立ち上げられました。反響はいかがでしょう。

**桜井** 立ち上げは2月4日、世界対がんデーの日でした。働く世代のがんサバイバーの様々な体験を通じて得られた、苦労や良かったこと、工夫など、それぞれのエピソードをサバイバー同士で共有する場です。小規模事業所だと、がん罹患率がまれな存在なこともありますから。私たちはエピソードバンクを掲示板機能だけにとどまらず、書き込まれた言葉を専門家と一緒



「エピソードバンク」のページ

に分析して悩みのアルゴリズムを解明し、支援する側の参考にもしていきたいと考えています。大事に育てていきたいですね。

——当協会の事業、例えばがん検診や禁煙の推進、ピンクリボン活動などは企業の健康経営に資するところが大きいです。私たちも皆さんの活動から学びながら一緒に両立支援に取り組めます。本日はありがとうございました。